



取扱説明書

GEAR
NEWS

BA50N/NH

4KN-28199-JA

ヤマハ車をお買いあげいただきありがとうございます。

この取扱説明書には、お買いあげいただいた車の正しい取り扱い方法や安全な運転のしかた、日常点検、簡単な定期点検整備などについて説明してあります。

車は万一取り扱いを誤ると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。

車の正しい取り扱いをご理解いただくため、運転される前に必ず本書をお読みください。

また、メンテナンスノート、セーフティガイド（スクーターをより安全にお乗りいただくためのアドバイス）もあわせてお読みください。

本書では、正しい取り扱いおよび点検整備に関する重要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

	安全にかかわる注意情報を示してあります。
 警 告	取り扱いを誤った場合、死亡または重傷に至る可能性が想定される場合を示してあります。
 注 意	取り扱いを誤った場合、傷害に至る可能性または物的損害の発生が想定される場合を示してあります。
要 点	正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

車の受け取りの際には、お買いあげいただいた販売店から「取扱説明書」「メンテナンスノート」「セーフティガイド」「仮保証書」「車両受け渡し確認書」を受け取り、以下の説明を必ずお受けください。

- 車の正しい取り扱い方法
- 日常点検、定期点検整備
- 保証内容および保証期間
- 正式保証書の発行に関する説明

※車をゆずるときには、次の持ち主のために本書もお渡しください。

※仕様の変更などにより、本書の図や内容が一部実車と異なることがありますのでご了承ください。

もくじ

安全運転のために.....1-1

あなた自身のために	1-1
歩行者と他の車のために	1-4
環境・住民の方との調和のために ..	1-5

各部の名称.....2-1

左側面	2-1
右側面	2-2
運転装置と計器類	2-3

各部の取り扱いと操作.....3-1

キーの取り扱い	3-1
メインスイッチ	3-1
警告灯	3-3
スピードメーターユニット	3-3
燃料計 “  ”	3-4
ハンドルスイッチ	3-4
後輪ブレーキペダル	3-5
フューエルタンクキャップ	3-5
燃料	3-7
エンジンオイルの補給	3-7
キックスターター	3-8
シート	3-8
ヘルメットホルダー	3-9
書類入れ	3-9
コンビニフック	3-10
リヤキャリア	3-10
パーキングロック	3-10
スタンディングハンドル	3-11
グリップウォーマー	
(BA50NH に標準装備、	
BA50N にオプション)	3-12

サイドスタンド	3-12
---------------	------

日常点検.....4-1

日常点検の実施	4-1
日常点検箇所／点検内容	4-1

運転操作.....5-1

エンジン始動	5-1
スタンドの戻しかた	5-1
発進	5-2
加速と減速	5-2
ブレーキ	5-3
ならし運転	5-3
駐車	5-4

点検整備.....6-1

点検整備の実施	6-1
カバーの取り外し、取り付け	6-2
エンジンオイル	6-3
トランスミッションオイルの	
交換時期	6-3
エンジンのかかり具合、	
異音の点検	6-3
低速、加速の状態の点検	6-4
エアクリーナーエレメント	6-4
タイヤ	6-5
ブレーキレバーの遊び／ブレーキ	
ペダルの遊び、および	
ブレーキのきき具合の点検	6-7
ブレーキシューの摩耗点検	6-8
バックミラー	6-9
車体各部の給油脂状態の点検	6-9

バッテリー	6-10
-------------	------

ヒューズの交換	6-11
---------------	------

灯火装置および方向指示灯の	
---------------	--

点検	6-12
----------	------

運行において異常が認められた	
----------------	--

箇所の点検	6-12
-------------	------

こんなときは	6-13
--------------	------

お車の手入れ.....7-1

洗車	7-1
----------	-----

キャストホイールの取り扱い	7-2
---------------------	-----

保管のしかた	7-3
--------------	-----

アフターケア用品について	7-3
--------------------	-----

製品仕様.....8-1

ユーザー情報.....9-1

二輪車を廃棄する場合は？	9-1
--------------------	-----

サービスマニュアル（別売）の	
----------------	--

紹介	9-2
----------	-----

車両情報	9-2
------------	-----

JAU27280

JAU33064

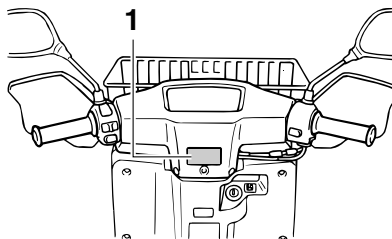
この章には、特に知っておいていただきたいこと、守っていただきたいことなどの基本的なアドバイスを述べてあります。運転するときには、次のことを守って安全運転および上手な操作を心がけてください。

安全運転とは、交通ルールを守ることだけでなく、ほかの人々が安全に通行できるように配慮することです。

あなた自身のために 安全項目ラベルについて

運転に慣れてきますと、いろいろな注意を忘れがちになり、事故を起こすことがあります。

車に乗るときには、安全項目ラベルの注意事項をいつも守り、安全運転に心がけてください。



1. 安全項目ラベル

⚠ 警告

- ・取扱説明書をよく読んで安全な運転をしましょう。
- ・ヘルメットを正しくかぶりましょう。
- ・マフラーは熱くなります。人が触れにくい場所に駐車する等の配慮をしましょう。
- ・ヘッドランプを昼間はロービーム点灯しましょう。
- ・違法改造はやめましょう。
- ・定められた点検整備をメンテナンスノートに従って励行しましょう。

安全運転は正しい服装から

- ヘルメットは必ず着用してください。ヘルメットは S または SG、JIS マークのある二輪車用を必ず着用してください。ヘルメットは正しくかぶり、必ずあごひもをしめます。頭にしっかり合って、圧迫感のないものが最適です。
- グローブを必ず着用してください。グローブは、摩擦に強い皮製のものが適しています。
- ヘルメットにシールドを着用してください。着用できないときは、ゴーグルを使用してください。
- 運転する服装は保護性の高い服で、明るく目立つ色で動きやすく、体の露出が少ない長袖・長ズボンを着用してください。疲労を少なくし、万一の転倒時には身体を保護します。ズボンのすそや袖口の広い服は運

安全運転のために

転操作のじゃまになり、思わぬ事故の原因にもなりますので避けてください。



- 靴はかかとが低く、運転操作がしやすいものを着用してください。また、くるぶしまで覆われていて足にピッタリしたものを選んでください。

JWA11590

警告

ヘルメットを正しくかぶっていないと、万一の事故の際、死亡または重傷に至る可能性が高くなります。運転者は、必ずヘルメットをかぶり、正しい服装で乗車してください。

日常点検、定期点検整備を必ず実施してください。

事故や故障を防ぐため、法令で定められた日常点検を1日1回運転する前に行ってください。また、法令で定められた6か月、12

か月ごとに行う定期点検も必ず実施してください。



車の異状

次のような場合は、車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと、走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそれがあり危険です。販売店で点検・整備を受けてください。

- 異音がしたり、異臭や異常な振動があるとき。
- 地面にオイルなどが漏れた跡があるとき。
- 燃料、冷却水のにじみまたは漏れた跡があるとき。

給油時は火気厳禁

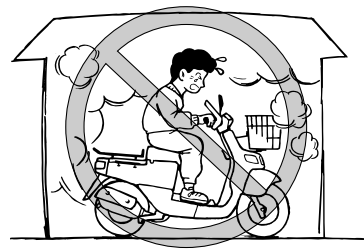
ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。



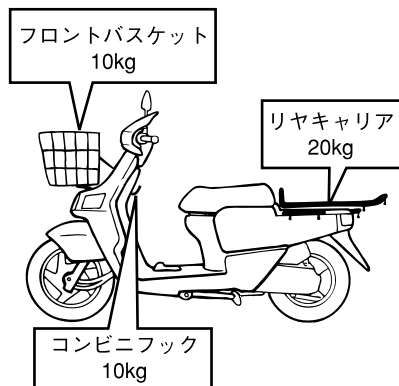
風通しの悪い場所でエンジンを始動しない

排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。

風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動、暖機運転は風通しのよい屋外で行ってください。



荷物はしっかり固定する



- 上記以外の場所には荷物を積まないでください。
- 最大積載量は、合計で 30kg です。
- 荷物を積むと、積まないときに比べて操縦安定性が変わります。荷物を積みすぎると、ハンドルが振られたりして危険です。積みすぎないように注意してください。
- フロントバスケットから荷物が出ないように注意してください。ハンドル操作の妨げとなったり、ヘッドライトや方向指示灯の配光に支障をきたすことがあります。
- ハンドルの近くには、荷物など、物を置か

ないでください。ハンドルの近くに物を置くと、ハンドル操作を妨げる場合があります。

- ヘッドライトの前を荷物などでさえぎらないようにしてください。ライトの熱によりヘッドライトのレンズが変色、溶損したり、荷物にまでその不具合がおよぶこともあります。

両手はハンドル、両足はフットボード
運転するときには、両手でハンドルを握り、両足をフットボードにのせます。



押して移動するときはエンジンを止める
車から降りて押して移動するときはエンジンを止めてください。

やむをえずエンジンをかけたまま移動するときはスロットルグリップを不用意に回さないようにするため必ず右手でスタンディングハンドルを持って行ってください。

スロットルグリップを持って行くとするめ事故の原因となります。



乗車定員は 1 名

運転者以外に人を乗せることは道路交通法によって禁じられています。



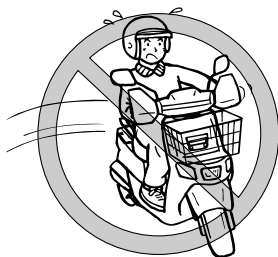
法定最高速度は 30 km/h

車の速度が法定最高速度 (30km/h) 以上になると、スピードメーター部の速度警告灯が点滅し、運転者に注意をうながします。

安全運転のために

急激なハンドル操作や片手運転はしない

急激なハンドル操作や片手運転は、横すべりや転倒の原因となります。絶対にしないでください。



誤った方法でエンジンを停止しない

誤った取り扱いをすると、マフラーの中の触媒装置が異常に高温になり、損傷するおそれがあります。次のような操作はしないでください。

- 走行中にメインスイッチでエンジンを停止する。
- 空ぶかし直後にエンジンを停止する。

自己流のエンジン調整、部品の取り外しはしない

エンジン調整はヤマハ販売店におまかせください。

JCA15220

注意

部品交換が必要な場合は正規の規格のものを使用するよう、販売店へ依頼してください。規格が異なった部品を使用すると、故障などの原因となります。

自賠責保険に必ず加入

自賠責保険（共済）に加入することは法令で定められています。万一の事態に備えて必ず加入してください。

また、保険の期限切れにも注意してください。



JAU27531

歩行者と他の車のために 他の人への思いやり

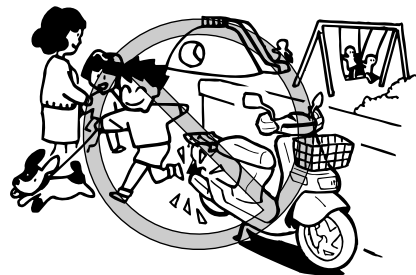
- 交通ルールを守り、まわりの歩行者や車の動きに注意し、相手の立場について思いやりの気持ちをもって通行しましょう。
- 周囲の状況に注意して、安全なスピードで走行してください。歩行者や自転車のそばを通るときは、安全な距離を保つか徐行してください。



駐車

- 盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。また、チェーンロックなどのサイクルロックも同時に使用することをおすすめします。
- 交通のじゃまにならない場所に駐車してください。

- 平坦な場所に駐車してください。やむをえず、傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、転倒や動き出しのないようにしてください。
- サイドスタンドを使用して駐車するときは、車が停止してからハンドルを左に切ってください。



JWA12240

警告

- エンジン回転中および停止後、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。触れるとヤケドをすることがありますので、注意してください。また、物などが直接触れないようにしてください。
- 駐車は、通行する人がマフラーやエンジンなどに触れない場所にしてください。
- マフラーの中の触媒装置は高温になります。枯れ草や紙、オイル、木材など、燃え

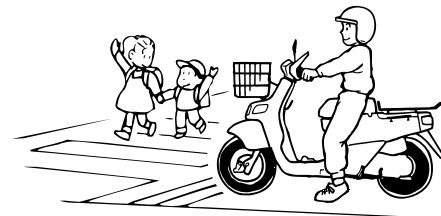
やすいものがある場所には駐車しないでください。

昼間はヘッドライトを下向きに

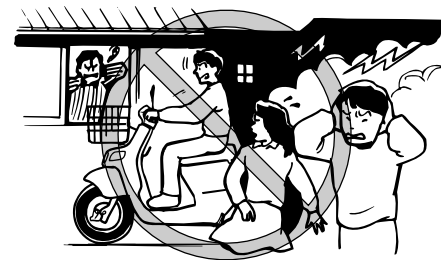
この車両は自動昼間点灯仕様です。エンジンがかかっている間は点灯しつづけます。他の車や歩行者へ注意をうながし、自分の存在を知らせるためです。対向車がまぶしくないように、ライトは下向きを使ってください。

環境・住民の方との調和のために 住民の方への思いやり

自分の都合だけを考えて、沿道の方に不愉快な騒音などの迷惑をかけないでください。



特に深夜の住宅街や人通りの多い道路などで長時間のアイドリングや急発進などを行うと、迷惑になりますのでしないでください。



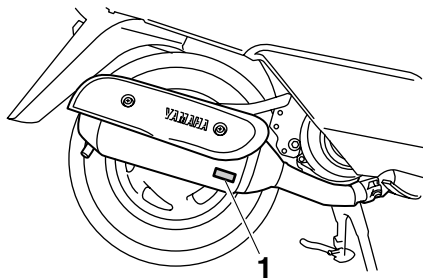
安全運転のために

違法改造はしない

- 違法改造は法律により禁止されています。改造は操縦安定性を悪くしたり、排気音を大きくして車の寿命を縮めたり、重大な事故や故障の原因となります。また、改造すると車の保証が受けられません。
- この車は、排出ガス規制適合車です。マフラーには排出ガスを浄化する触媒装置が内蔵されています。他のマフラーをこの車に取り付けると、排出ガス規制に適合しなくなる可能性があります。マフラーを交換する場合は、お買い上げのヤマハ販売店にご相談ください。なお、ヤマハ純正部品のマフラーには“YAMAHA” マークが刻印されています。

環境への配慮

廃車をするときや、バッテリー、廃油などの廃棄処理をするときは、環境保護のためお買い上げのヤマハ販売店にご相談ください。



1. “YAMAHA” マーク

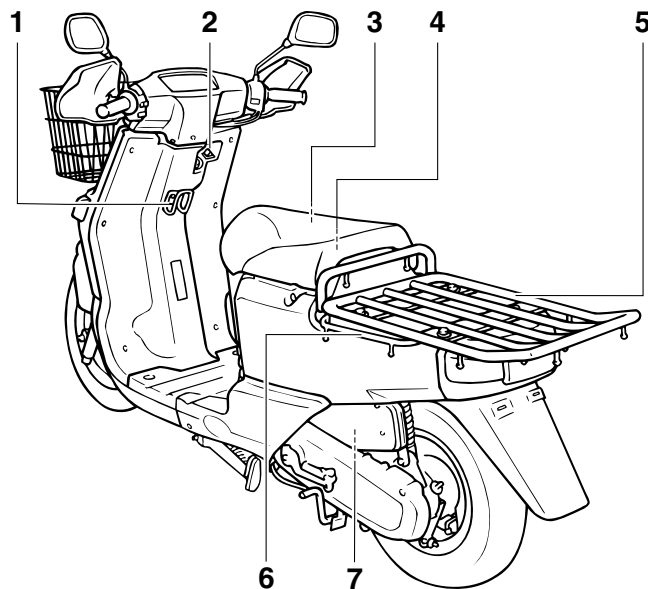
各部の名称

JAU32220

左側面

<イラストは BA50NH >

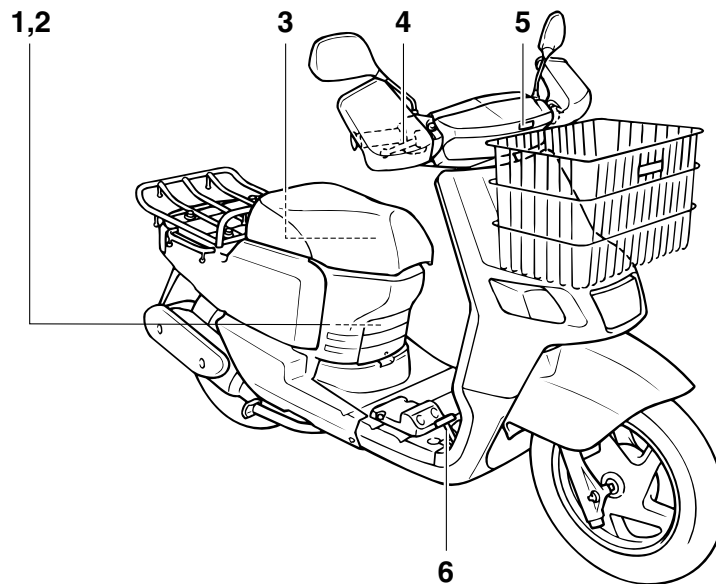
2



1. コンビニフック (P3-10)
2. グリップウォーマースイッチ (P3-12)
3. オイルタンクキャップ (P3-7)
4. 書類入れ (P3-9)
5. リヤキャリア (P3-10)
6. スタンディングハンドル
7. エアクリーナーエレメント (P 6-4)

右側面

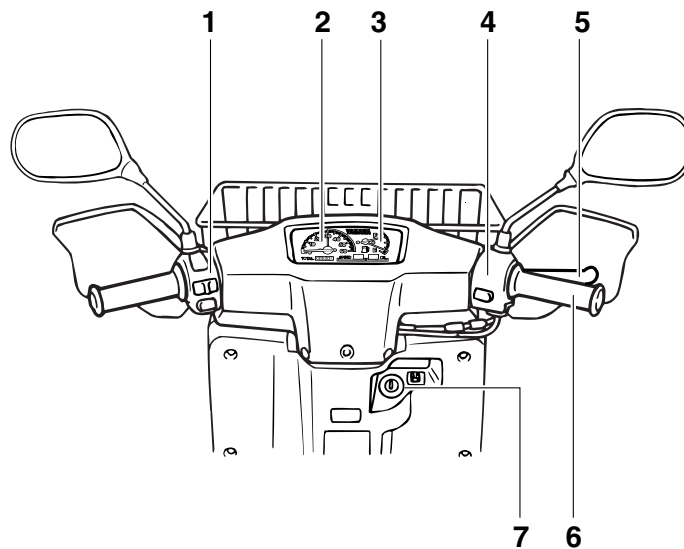
<イラストは BA50N >



1. バッテリー (P6-10)
2. ヒューズ (P6-11)
3. フューエルタンクキャップ (P3-5)
4. パーキングロックボタン (P 3-10)
5. 手元灯
6. ブレーキペダル (P 3-5/6-7)

運転装置と計器類

2



1. ハンドルスイッチ (左) (P3-4)
2. スピードメーター (P3-3)
3. 燃料計 (P3-4)
4. ハンドルスイッチ (右) (P3-4)
5. 前輪ブレーキレバー (P6-7)
6. スロットルグリップ
7. メインスイッチ / ハンドルロック (P3-1)

JAU31081

キーの取り扱い

- キーは車の操作や保管をするときに使用する大切なものです。キーを紛失しないように、十分に注意してください。
- キーは2本付属しています。1本は予備として大切に保管してください。
- 1本のキーを紛失または破損したときは、販売店またはキーショップなどで新しい予備キーを作っておいてください。
- キーを2本とも紛失または破損したときは、販売店にご相談ください。



JCA12501

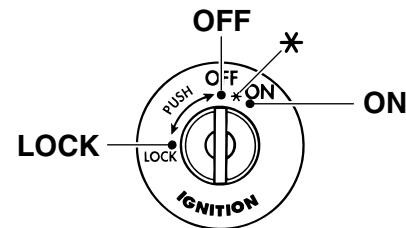
⚠ 注意

金属製のキーホルダーは使用しないでください。また、リングなどに複数のキーをつないで使用しないでください。走行中にキーホルダーや他のキーがカバーなどの部品に当

たり、傷付きの原因となる場合があります。キーホルダーは、布製または皮製のものをお勧めします。

JAU10460

メインスイッチ



メインスイッチはエンジンの始動と停止、ブレーキランプや方向指示灯などの電源の「入/切」、ハンドルロックを行います。

JWA11620

⚠ 警告

走行中にメインスイッチを OFF や LOCK の位置にすると、電気系統の作動が停止し、事故につながるおそれがあります。メインスイッチは必ず停車中に操作してください。

JCA11970

⚠ 注意

- 盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。
- エンジンをかけないでメインスイッチを ON のままにしたり、エンジン始動後アイ

各部の取り扱いと操作

ドリング状態を長時間続けると、バッテリーあがりの原因となります。注意してください。

JAU38290

ON

全ての電気回路に電源が供給され、エンジンを始動させることができます。キーを抜くことはできません。

要 点

エンジンが始動するとヘッドライト、手元灯、テールランプ、メーター灯が自動的に点灯します。

JAU10660

OFF

全ての電気回路がオフになり、エンジンが停止します。キーを抜くことができます。

JAU10670

*

エンジンオイル量警告灯の電気回路点検用の位置です。

要 点

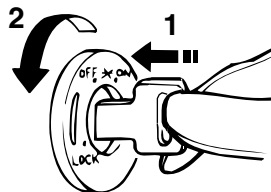
メインスイッチをこの位置にしても、警告灯が点灯しないときは、ヤマハ販売店で電気回路の点検を受けてください。

JAU10680

LOCK

ハンドルがロックされます。全ての電気回路がオフになります。キーを抜くことができます。

ハンドルロックのしかた



1. 押す
2. 回す

1. ハンドルを左へいっぱいに切ります。
2. OFF の位置でキーを押し込み、そのまま LOCK まで回します。

要 点

ロックしにくいときは、ハンドルを軽く左右に動かしながらキーを回します。

3. キーを抜きます。

ハンドルロックの解除のしかた

LOCK の位置でキーを押しこみ、そのまま

OFF まで回します。

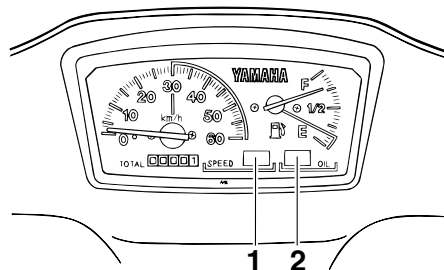
JWA11450



走行中にメインスイッチを OFF や LOCK の位置にすると、電気系統の作動が停止し、事故につながるおそれがあります。メインスイッチは必ず停止中に操作してください。

警告灯

JAU10991



1. 速度警告灯 “SPEED”
2. エンジンオイル量警告灯 “OIL”

エンジンオイル量警告灯 “OIL”

JAU11170

エンジンオイルの量が少なくなると点灯します。走行中、エンジンオイル量警告灯が点灯したら早めにエンジンオイルを補給してください。

また、警告灯の玉切れチェックのため、キーを “*” の位置にしたときにも点灯します。

要 点

キーを “*” の位置にしたときに点灯しない場合や、エンジンオイルを補給しても消灯しない場合はヤマハ販売店で電気回路の点検を受けてください。

▲ 注 意

走行する前に、エンジンオイル量が充分であることを確認してください。

JCA11840

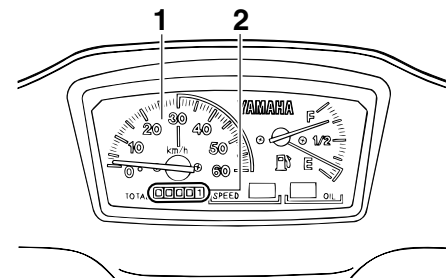
速度警告灯 “SPEED”

JAU38070

車の速度が 30km/h を超えると点滅し、運転者に注意をうながします。

スピードメーターユニット

JAU11621



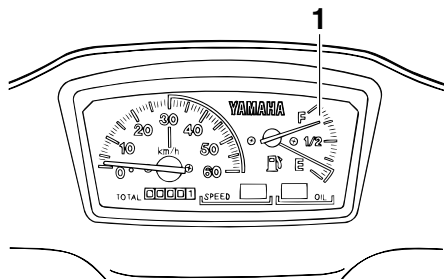
1. スピードメーター
2. オドメーター

スピードメーターユニットにはスピードメーターとオドメーターが装備されています。スピードメーターは車の速度を示します。オドメーターは走行した総距離を示します。

各部の取り扱いと操作

JAU12110

燃料計 “”



1. 燃料計

ガソリンの残量を示します。

指針が“E”に近づいたら、早めに補給してください。

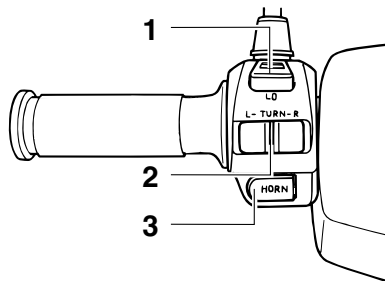
“E”のガソリン残量は約0.7Lです。

要 点

- 燃料計はメインスイッチがONのときにだけ作動します。OFFのときは指針が“E”より下側に移動します。
- 残量の確認は、平坦な場所でメインスタンドを立て、メインスイッチをONにしてください。

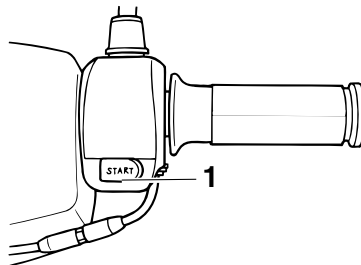
ハンドルスイッチ

左



1. ヘッドライト上下切り替えスイッチ“HI/LO”
2. 方向指示器スイッチ“TURN”
3. ホーンスイッチ“HORN”

右



1. スタータースイッチ“START”

JAU12347

ヘッドライト上下切り替えスイッチ (HI/LO)

ヘッドライトの配光を上向き、下向きに切り替えるスイッチです。

HI（上向き）：遠くを照らします。

LO（下向き）：近くを照らします。

要 点

先行車や対向車があるときは、ヘッドライトを下向き（LO）にしてください。

JAU38080

方向指示器スイッチ（TURN）

進路変更の合図に使用します。

操作は、進路変更する側にスイッチをスライドさせます。

消灯するときは、スイッチを元に戻します。

R：右側の方向指示灯が点滅します。

L：左側の方向指示灯が点滅します。

要 点

方向指示器を使用すると“カチカチ”音がします。

JWA11640



警告

方向指示灯は自動的に消灯しません。使用後は、必ず消灯してください。点滅したままに

しておくと、他のかたの迷惑になります。

JCA11980

▲注意

電球を交換するときは、正規のワット数のものを使用してください。これ以外のものを使用すると、正常に作動しません。

JAU12510

ホーンスイッチ “HORN”

スイッチを押すとホーンが鳴ります。

要 点

必要なときにのみ使用してください。

JAU38300

スタータースイッチ “START”

後輪ブレーキペダルを踏んでスイッチを押すと、スターターモーターが回り、エンジンが始動します。

JCA11881

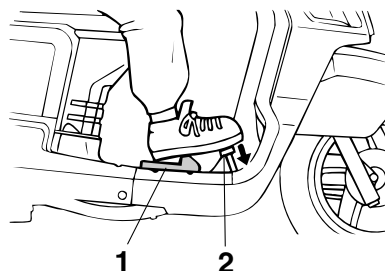
▲注意

- スターターモーターを連続して回転させないでください。消費電力が多いためバッテリーあがりの原因となります。
- エンジンを始動させる前に、5-1 ページの始動手順を参照してください。

JAU28210

後輪ブレーキペダル

フットレストに下図のように足をのせて、ブレーキペダルを踏み込みます。



1. フットレスト
2. ブレーキペダル

JAU33102

フューエルタンクキャップ

JWA12171

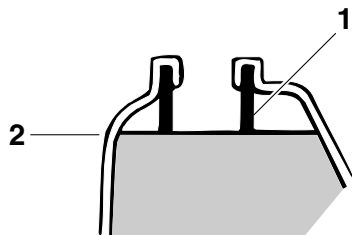
▲警告

給油時およびガソリンを取り扱う場合は、次のことを必ず守ってください。

- 給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。
- フューエルタンクキャップを開ける前に、車体などの金属部分に触れて静電気の除去を行ってください。身体に静電気を帯びた状態で給油すると、放電による火花で引火する場合があります、ヤケドするおそれがあります。
- 給油操作は、必ず一人で行ってください。複数で行うと静電気が除去できない場合があります。
- 給油は、必ず屋外で行ってください。
- セルフサービスのガソリンスタンドで給油するときは、ガソリンの吹きこぼれがないよう、慎重に給油してください。
- 給油限度（フィラーチューブ下端まで）を超えてガソリンを入れないでください。走行中にガソリンがにじみ出ることがあり危険です。
- 給油後、フューエルタンクキャップを確実に

各部の取り扱いと操作

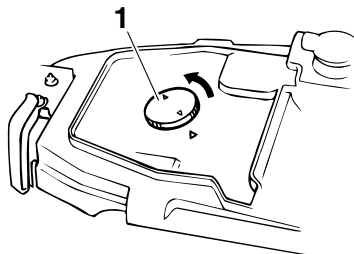
に閉めてください。



1. フィラーチューブ
2. 給油限度

フューエルタンクキャップの取り外しかた

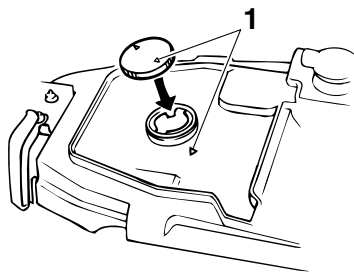
1. シートを開けます。(3-8 ページ参照)
2. フューエルタンクキャップを反時計方向に回して開けます。



1. フューエルタンクキャップ

フューエルタンクキャップの取り付けかた

1. フューエルタンクキャップを取り付け、時計方向に回して締めます。



1. 合マーク

要 点

- キャップ側と車体側の合マークがあう位

置まで回してください。

- フューエルタンクキャップにはエア抜きのために小さな穴があいています。フューエルタンクキャップの上に布などを置かないでください。

2. シートを閉めます。

燃料

JAU31460

指定燃料

JAU28311

指定燃料：

無鉛レギュラーガソリン

タンク容量：

約9.0 L

JCA12511

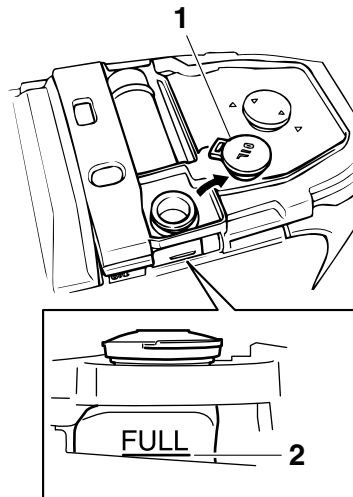
⚠ 注意

- 必ず指定燃料を使用してください。高濃度アルコール含有燃料や軽油、粗悪ガソリンなど、指定以外の燃料を使用するとエンジンの始動性が悪くなったり、出力低下などのエンジン不調の原因となる場合があります。また、エンジンや燃料系の部品を損傷するおそれがあります。
- こぼれたガソリンは、布切れなどできれいにふき取ってください。
- タンクにゴミやチリなどの不純物が入らないように注意してください。

エンジンオイルの補給

JAU28351

1. シートを開けます。(3-8 ページ参照)
2. オイルタンクキャップを外し、エンジンオイルを補給します。



1. オイルタンクキャップ
2. フルレベル

オイルタンク容量：

1.40 L

推奨オイル：

ヤマハオートループスーパービジネスオイル、ヤマハオートループスーパーオイルもしくは JASO2 サイクルエンジンオイル規格FC グレード

JCA12020

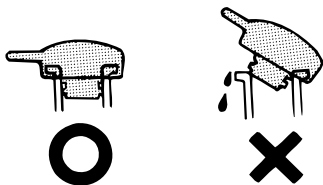
⚠ 注意

- 走行中にエンジンオイル量警告灯が点灯したら、早めにエンジンオイルを補給してください。
- エンジンオイルの補給時は、必ずエンジンを止めて、火気を近づけないでください。
- オイルの補給は、オイルタンクの口元からあふれさせないよう慎重に行ってください。
- オイルが不足したまま走行すると、エンジン故障の原因となりますので、必ずエンジンオイル量を点検してください。
- 銘柄やグレードの違うオイルを混入させたり、低品質オイルを使用しないでください。
- オイルタンクキャップは確実に取り付けてください。走行中にオイルがにじみ出る

各部の取り扱いと操作

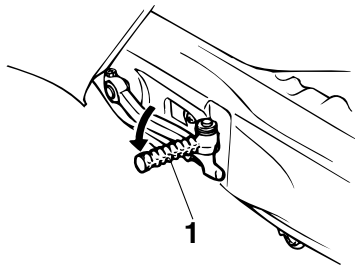
ことがあります。

3. オイルタンクキャップを閉めます。



4. シートを閉めます。

キックスターター



1. キックスターター

スタータースイッチを押してもエンジンが始動しない場合、キックスターターで始動してください。キックスターターでエンジンを始動するには、キックスターターレバーを出し、力強く下にキックします。

要 点

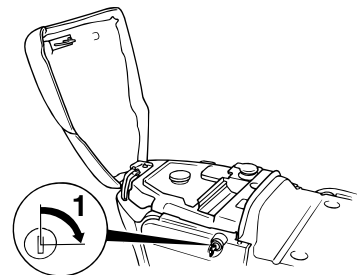
キックスターターレバーは自動的にには戻りません。エンジン始動後、必ず手か足で戻してください。

JAU36050

シート

シートの開けかた

キーでシートロックを解除し、シート後方を持ち上げます。



1. 解除

シートの閉めかた

シート後方を押さえてロックします。

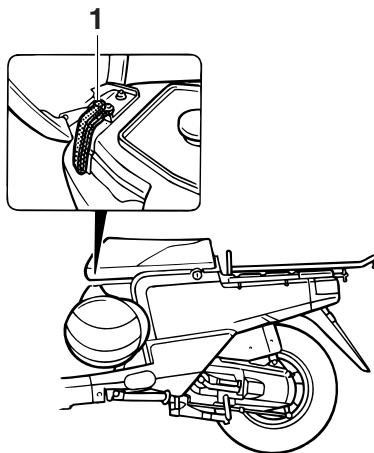
JCA12780

▲ 注 意

キーをシートの下に置いたまま閉じると、ロックされてキーが取り出せなくなります。注意してください。

JAU14300

ヘルメットホルダー



1. ヘルメットホルダー

シートを開けるとヘルメットホルダーがあります。ヘルメットのあごひもの金具部分を掛け、シートをロックします。

JWA11650



警告

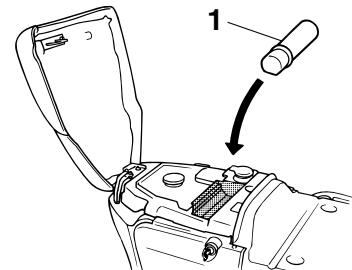
ヘルメットをヘルメットホルダーに掛けたまま走行しないでください。ヘルメットが運転を妨げ、思わぬ事故の原因になったり、車

の部品に損傷を与えたり、またヘルメットにも損傷を与え保護機能を低下させます。

JAU28510

書類入れ

シート下に書類入れがあります。メンテナンスノート、自賠責保険証、ポケットガイドはこの中に保管してください。



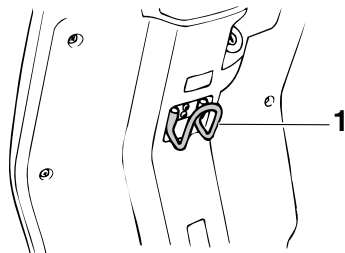
1. 書類入れ

各部の取り扱いと操作

JAU28560

コンビニフック

手さげ袋などをこのフックに掛けます。



1. コンビニフック

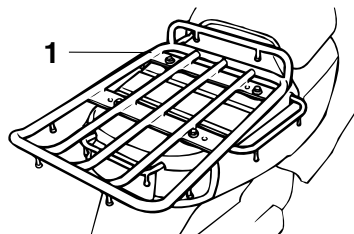


コンビニフックに掛けられる荷物は、10kgまでです。

JWA11680

JAU15110

リヤキャリア



1. リヤキャリア

リヤキャリアに荷物を積むときは、ひもなどでしっかり固定してください。

JWA11690



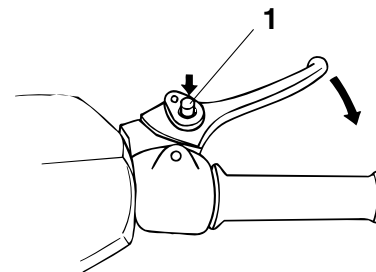
リヤキャリアに積める荷物は、20kg までです。

JAU29851

パーキングロック

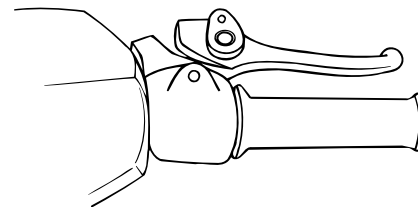
パーキングロックのかけかた

ロックボタンを押しながらブレーキレバーを握り、ロックボタンが下がり切ったところでブレーキレバーを離します。



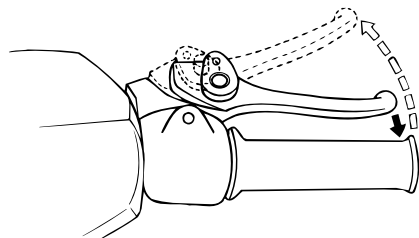
1. ロックボタン

ロックされた状態



解除のしかた

ブレーキレバーをさらに握るとロックボタンが戻り、パーキングロックを解除します。



JWA11670

警告

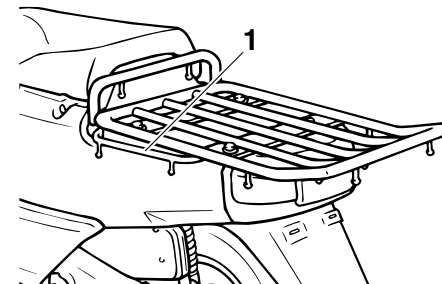
- パーキングロックはサイドスタンドを出してから操作してください。
- 車から離れるときは、パーキングロックが確実にロックしてあるかを確認してください。
- 走行中はロックボタンを操作しないでください。
- 定期的に、フロントブレーキレバーの遊び量の点検・調整を行ってください。遊びが多すぎるとパーキングロックを使用しても、フロントブレーキが確実にロックされないことがあります。

要 点

パーキングロック中のブレーキランプは点灯しません。

スタンディングハンドル

メインスタンドを立てるときに右手で持ちます。



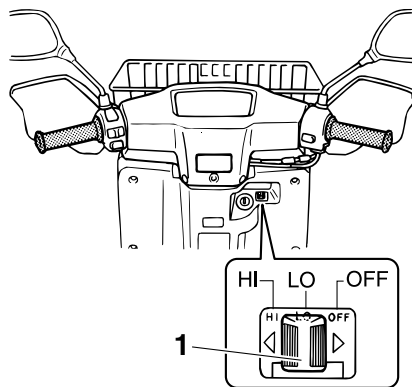
1. スタンディングハンドル

各部の取り扱いと操作

JAU29920

グリップウォーマー (BA50NH に標準装備、BA50N にオプション)

この車にはハンドルグリップを暖めるグリップウォーマーが内蔵されています。スイッチを外気温、使用状況により OFF・LO・HI を切り替えて使用してください。



1. グリップウォーマースイッチ

JWA11710

警告

走行中にスイッチの操作をしないでください。運転操作に支障をきたすことがあり、たいへん危険です。スイッチの操作は、必ず停

車して行ってください。

JCA12010

注意

- グリップウォーマーが熱くなりすぎないように、スイッチを切り替えてください。
- 外気温が20℃以上のときは使用しないでください。
- グリップウォーマーの表面に摩耗や損傷などがあると、ヤケドしたり、感電することがあります。ヤマハ販売店で交換してください。
- 使用するときは、必ず手袋を着用してください。素手で使用するとヤケドをすることがあります。
- ハンドルカバーを併用するときは、専用ハンドルカバー（別売）を使用してください。

要点

- グリップウォーマーは、エンジンが始動しているときだけ作動します。
- グリップウォーマーの電源供給には、専用の発電コイルを使用しています。

JAU36000

サイドスタンド

サイドスタンドはフレームの左側にあります。車を直立にした状態で、足でサイドスタンドを上げ下げします。

要点

この車にはサイドスタンドスイッチが装備されています。サイドスタンド使用中は、安全のため、スロットルグリップを操作してもエンジン回転数は一定以上になりません。

JCA13120

注意

サイドスタンドがスムーズに作動しないときは、取付部に注油してください。

JWA12590

警告

- サイドスタンドを出したまま走行すると、スタンドが地面に接触して運転操作に支障をきたすことがあり、たいへん危険です。
- この車には発進時のサイドスタンドの格納忘れを防止するサイドスタンドスイッチが装備されています。発進時には必ず格納してください。
- 走行中にサイドスタンドを操作するとエ

ンジン回転数が急激に下がり、思わぬ事故の原因となります。走行中はサイドスタンドを操作しないでください。

日常点検の実施

車を安全で快適に使用いただくため、道路運送車両法で、1日1回の日常点検を行うことが義務づけられています。運転する前に必ず実施してください。

JWA12031

警告

- 日常点検を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。
- 異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

要 点

点検整備に使用する工具は、必要に応じて買い求めください。(モデルにより、車載工具の有無や内容が異なります。)

日常点検箇所／点検内容

詳しい点検の方法は、6-1 ページ以降の点検整備の方法および別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

点検箇所	点検内容
ブレーキ	● ブレーキペダルの踏みしろおよびレバーの握りしろが適切で、ブレーキのききが充分であること。
タイヤ	● タイヤの空気圧が適切であること。 ● 亀裂、損傷がないこと。 ● 異常な摩耗がないこと。 ● 溝の深さが充分あること。 (※)
エンジン	● エンジンオイルの量が適切であること。(※) ● かかり具合が良好で、かつ、異音がないこと。(※) ● 低速、加速の状態が適切であること。(※)
灯火装置および方向指示灯	● 点灯または点滅具合が良好で、かつ、汚れや損傷がないこと。
運行において異常が認められた箇所	● 当該箇所に異常がないこと。

(注)

※印の点検は車の走行距離、運行時の状態な

どから判断した適切な時期(長距離走行時や洗車、給油後など)に実施をしてください。

JWA11732

警告

安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。点検整備するときは安全に充分注意し、下記の内容を守ってください。

- 点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。
- エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。直接触れたりしないでください。ヤケドに注意してください。
- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。
- 走行して点検するときは、交通状況に注意してください。
- 異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

エンジン始動

JAU38480

JAU38310

⚠ 注意

初めて車両を運転する前に、5-3 ページのな
らし運転のしかたを参照してください。

1. メインスイッチを ON にします。
2. スロットルを完全に閉じます。
3. 後輪ブレーキペダルをしっかり踏み、ス
タータースイッチを押して、エンジンを
始動させます。

要 点

スタータースイッチで 5 秒以内にエンジン
が始動しないときは、バッテリー電圧を回復
させるため、10 秒位休ませてからスター
タースイッチを押してください。

JCA12570

⚠ 注意

エンジンを長持ちさせるため、エンジンが冷
えている間の無用な空ふかしは避けてくだ
さい。

スタンドの戻しかた サイドスタンドのとき

サイドスタンドを確実に格納します。

JCA13120

⚠ 注意

サイドスタンドがスムーズに作動しないと
きは、取付部に注油してください。

JWA12590

⚠ 警告

- サイドスタンドを出したまま走行すると、
スタンドが地面に接触して運転操作に支
障をきたすことがあります、たいへん危険で
す。
- この車には発進時のサイドスタンドの格
納忘れを防止するサイドスタンドスイッ
チが装備されています。発進時には必ず格
納してください。
- 走行中にサイドスタンドを操作するとエ
ンジン回転数が急激に下がり、思わぬ事故
の原因となります。走行中はサイドスタン
ドを操作しないでください。

メインスタンドのとき

1. 左手でハンドルを握り、右手でスタン
ディングハンドルまたはリヤキャリアを
持ちます。

2. 車を前に押し出してメインスタンドを戻
します。

JWA12270

⚠ 警告

メインスタンドを立てたり戻したりすると
きは、スロットルグリップを握らないでくだ
さい。スロットルグリップが回り、車が走り
出すことがあります。

運転操作

発進

要 点

発進する前にエンジンを暖機します。

JAU38490

⚠ 警 告

飛び出し防止のため、走り出すまではエンジンの回転をむやみに上げないでください。

JWA12260

要 点

サイドスタンド使用中は、安全のため、スロットルグリップを操作してもエンジン回転数は一定以上になりません。

1. 車の左側から右足をフットボードに乗せ、後輪ブレーキペダルを踏みます。
2. シートにまたがり、バックミラーを調整します。
3. 方向指示器スイッチを右側に入れ発進の合図をします。
4. 周りの安全を確認し、スロットルグリップをゆっくりと回して発進します。

JWA12280

⚠ 警 告

スロットルグリップを急激に手前に回すと、急発進して危険です。

5. 方向指示器を消灯します。

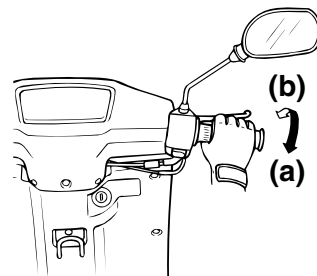
JWA12590

⚠ 警 告

- サイドスタンドを出したまま走行すると、スタンドが地面に接触して運転操作に支障をきたすことがあり、たいへん危険です。
- この車には発進時のサイドスタンドの格納忘れを防止するサイドスタンドスイッチが装備されています。発進時には必ず格納してください。
- 走行中にサイドスタンドを操作するとエンジン回転数が急激に下がり、思わぬ事故の原因となります。走行中はサイドスタンドを操作しないでください。

加速と減速

速度の調整は、スロットルを開けたり、閉めたりして行います。速度を上げるには、スロットルグリップを (a) 方向に回します。速度を落とすには、スロットルグリップを (b) 方向に回します。



JCA12680

⚠ 注 意

上り坂で停止するとき、ブレーキを使用してください。スロットルグリップの操作で車を保持すると、クラッチなどが発熱して故障の原因となります。

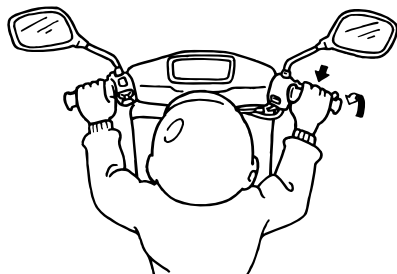
JAU33171

JWA11571

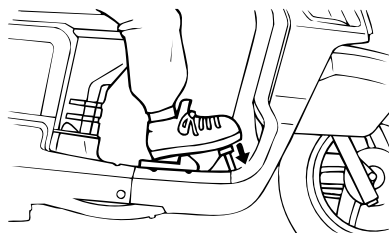
JAU31470

ブレーキ

1. スロットルを完全に閉じます。
 2. 前輪ブレーキと後輪ブレーキを同時に、徐々にかけます。
- 前輪ブレーキ



後輪ブレーキ



警告

- 急なブレーキは避けてください（特にどちらか一方に傾いている時）。横すべりや転倒の原因となります。
- 踏切、路面電車のレール、道路建設現場の鉄製のプレート、マンホールのフタなどは、濡れているときは極端に滑りやすくなります。そのようなところでは減速し、注意して走行してください。
- 濡れた路面では、ブレーキが効きにくいことを留意してください。
- 下り坂でのブレーキ操作は非常に困難です。坂道では減速してください。
- 連続したブレーキ操作は避けてください。ブレーキ部の温度が上昇し、ブレーキの効が悪くなるおそれがあります。

ならし運転

ならし運転のしかた

車を長持ちさせるために、ならし運転を行ってください。

乗りはじめてから約 1 か月間（または 100km 走行まで）は、25km/h 以下のスピードで走ってください。

また、走行するときは、不要なからぶかしや急加速、急減速はしないでください。

JAU17212

駐車

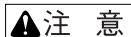
駐車するときは、エンジンを止め、キーをメインスイッチから抜きます。

JWA11580



- エンジンやマフラーは高温になります。通行する人などが触れない場所に駐車してください。
- 傾斜地や地面が柔らかいところには駐車しないでください。車が転倒することがあります。

JCA11930



草や可燃物等の火災の危険がある場所には、決して駐車しないでください。

JAU29834

点検整備の実施

日常点検

4-1 ページ「日常点検箇所／点検内容」の表にしたがって、1日1回運転する前に実施してください。点検の方法については、本書の以降のページや、別冊「メンテナンスノート」の点検整備のしかた以降のページを参照してください。

定期点検整備

定期点検整備は車を使用する人が自己管理責任で定期的に行う点検整備で、法または法に準じて行うことが義務づけられています。二輪自動車または原動機付自転車については、6か月点検と12か月点検の2種類があります。

定期点検項目と基本的な点検内容は別冊の「メンテナンスノート」に記載してあります。ここでは、この車独自の内容を補足説明しています。実際の点検作業にあたっては、別冊「メンテナンスノート」とあわせてご使用ください。

JWA12053



警告

- 点検整備を怠ると重大な事故、ケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。

- 安全のため、ご自身の知識、技量にあわせて範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。
- 点検するときは安全に充分注意し、以下の内容を守ってください。
 - ・点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。
 - ・エンジン停止直後の点検は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。
 - ・排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動、暖機運転は風通しのよい屋外で行ってください。
 - ・走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意してください。
 - ・異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

要 点

- 点検整備に使用する工具は、必要に応じて

お買い求めください。(モデルにより、車載工具の有無や内容が異なります。)

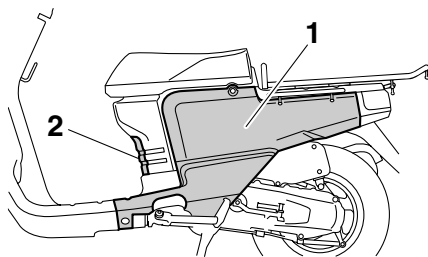
- 点検結果は、別冊「メンテナンスノート」の定期点検整備記録簿に記入してください。ご自身でできない項目については、ヤマハ販売店で点検を受け、記録してください。
- 点検の記録は廃車されるまで保存してください。
- メーカー指定項目の点検結果は、定期点検整備記録簿の「その他」の欄に記録してください。

点検整備

JAU18751

カバーの取り外し、取り付け

図のカバーは、点検整備などで取り外す必要があります。カバーを取り外すときや、取り付けるときは、この項目を参照してください。



- 1. カバー A
- 2. カバー B

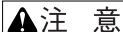
JAU35990

カバー A

カバーの取り外しかた

1. シートを開けます。(3-8 ページ参照)
2. スクリューを外し、図のようにカバーを取り外します。

JCA12670



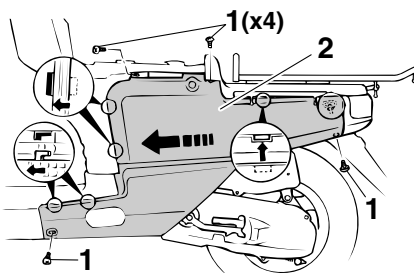
注意

カバーの取り外し、取り付けの際は、ツメを

破損しないように注意してください。

要 点

カバー A の外しかたは、後方のフックの次に前部のツメを外し、前方にスライドさせながら中央、後部のツメの順に外します。



- 1. スクリュー
- 2. カバー A

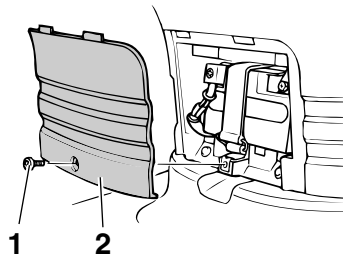
カバーの取り付けかた

カバーを取り付け、スクリューを締め付けます。

カバー B

カバーの取り外しかた

スクリューを外し、図のようにカバーを取り外します。



- 1. スクリュー
- 2. カバー B

カバーの取り付けかた

カバーを取り付け、スクリューを締め付けます。

JAU30070

エンジンオイル

エンジンオイル量の点検

エンジンオイル量警告灯が点灯したら、早めにエンジンオイルを補給してください。

JAU30661

トランスミッションオイルの交換時期

初回：

1 か月点検時または1000km走行時

2回目以降：

10000km 走行毎

定期交換時オイル量：

0.11 L

推奨オイル：

ヤマハギヤオイル

JAU30690

エンジンのかかり具合、異音の点検

エンジンがすみやかに始動し、スムーズに回転するかを点検します。

エンジンから異音がないかを点検します。

JAU30700

低速、加速の状態の点検

暖機運転後に、アイドリングがスムーズに続くかを点検します。

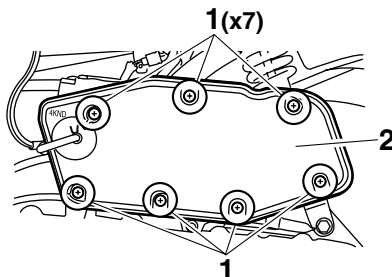
スロットルグリップを徐々に回してエンジンを加速したとき、スロットルグリップもエンジンもスムーズに回るかを走行などして点検します。このとき、エンジンストップ（エンスト）やノッキングなどが起きたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU33191

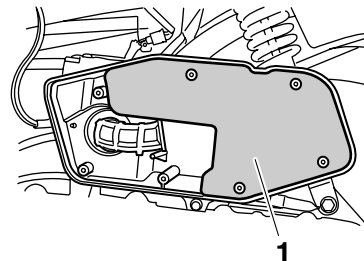
エアクリーナーエレメント

エアクリーナーエレメントの清掃のしかた

1. カバー A を外します。（6-2 ページ参照）
2. スクリューを外し、エアクリーナーケースカバーを左に外します。



1. スクリュー
2. エアクリーナーケースカバー
3. エアクリーナーエレメントを取り外し、きれいな灯油で洗浄し、軽くしぼります。



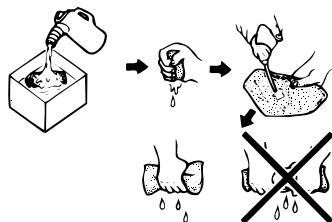
1. エアクリーナーエレメント

JWA12250



警告
ガソリンや引火性の高い洗浄剤は引火のおそれがありますので、使用しないでください。

4. エアクリーナーエレメントに損傷がないか点検します。損傷している場合は交換します。
5. ME-R フィルターオイルをエアクリーナーエレメントの表面全体に塗布してから、布切れなどで包み、しぼります。



6. エアクリーナーエレメントを、エアクリーナーケースに取り付けます。

JCA11940

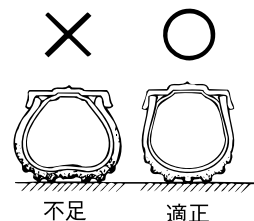
⚠ 注意

- 破れなどのあるものは交換してください。
- エアクリーナーエレメントに水や油などをつけないでください。水や油などが付着して汚れているものは交換してください。
- エアクリーナーエレメントの取り付けが悪いと、ゴミやほこりがエンジン内部に入り、摩耗や出力低下を起こして耐久性に影響を与えます。確実に取り付けてください。
- 洗車時にエアクリーナーケースに水を入れないでください。内部に水が入ると、始動不良などの原因になります。
- 著しくほこりなどの多い場所を走行した

ときは、定期点検期間より早めに点検、清掃を行ってください。

7. エアクリーナーケースカバーを取り付け、スクリューを締め付けます。
8. カバーを取り付けます。

タイヤ 空気圧



タイヤ接地部のたわみ状態により空気圧が不足していないかを点検します。たわみ状態が異常なときは、タイヤゲージで点検し、正規の空気圧にしてください。
この車はチューブレスタイヤを装着してあります。

タイヤ空気圧：

1名乗車：

前輪：

150 kPa (1.50 kgf/cm²)

後輪

175 kPa (1.75 kgf/cm²)

要 点

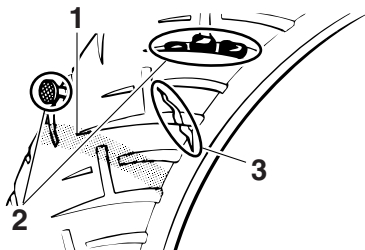
- タイヤの空気圧は徐々に低下します。見た目には不足していることが判りにくいタイヤもあり、少なくとも1か月に一度はタイヤゲージを使用して空気圧の点検を行ってください。
- 空気圧の確認は、タイヤが冷えているときに行ってください。走行後はタイヤが暖まっており、空気圧が高くなります。

JAU28641

タイヤの亀裂、損傷の点検

タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないかを点検します。

この車はチューブレスタイヤを装着しています。タイヤの接地面や側面に釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検し、異常があったときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。



1. ウェアインジケター（摩耗限度表示）

2. 異物（釘、石など）

3. 亀裂、損傷

要 点

道路の縁石などにタイヤ側面を接触させたり、大きくくぼみや突起物を乗り越えたときは、必ず点検してください。

JAU28700

タイヤの異常な摩耗

タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

JAU28862

タイヤの溝の深さ

タイヤの溝の深さをウェアインジケターで点検します。ウェアインジケターがあらわれたら、タイヤを交換してください。

警告

- タイヤを交換するときは必ず、指定タイヤを使用してください。指定タイヤ以外のタイヤを使用すると、操縦安定性に影響をおよぼすおそれがありますので、使用しないでください。
- 過度にすり減ったタイヤの使用や不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となることがあります。取扱説明書に記載された空気圧を守り、過度にすり減ったタイヤは交換してください。
- タイヤに異常があると、操縦安定性に影響をおよぼしたりパンクの原因になります。異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

タイヤサイズ:

前輪:

90/90-12 44J

後輪:

110/90-10 51J

指定タイヤ:

前輪:

IRC/MB58-TL

DUNLOP/K378FA

後輪:

IRC/MB57-TL

DUNLOP/K378B

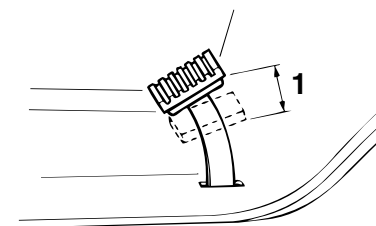
JAU31131

ブレーキレバーの遊び／ブレーキペダルの遊び、およびブレーキのきき具合の点検

ブレーキの遊びの点検

<前輪ブレーキ>

ブレーキレバーを軽く握り、抵抗を感じるまでのレバー先端部の遊びが 10.0-20.0 mm の範囲にあるかを点検します。

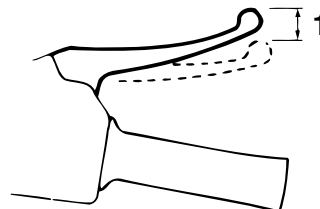


1. 遊び

点検の結果調整が必要な場合は、アジャスターで調整します。

1. アジャスターを時計回り (a) に回すと、遊びが少なくなります。
2. アジャスターを時計回り反時計回り (b) に回すと、遊びが多くなります。

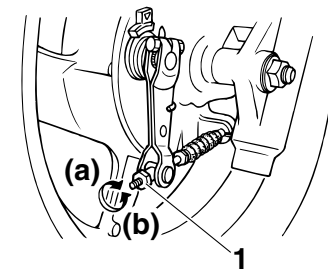
前輪ブレーキ



1. 遊び

<後輪ブレーキ>

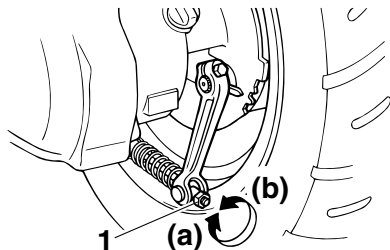
ブレーキペダルを軽く押し、抵抗を感じるまでの遊びが 10.0-15.0 mm の範囲にあるかを点検します。



1. アジャスター

点検整備

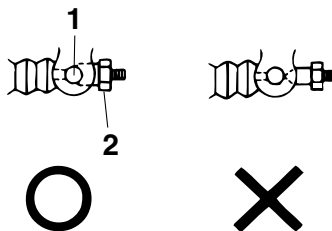
後輪ブレーキ



1. アジャスター

要 点

アジャスターは、必ずピンとかみ合わせてください。



1. ピン
2. アジャスター

JWA11850



ブレーキ調整後は、必ずブレーキランプの点灯とタイミング、ブレーキの引きずりがなければ確認してください。

ブレーキのきき具合の点検

乾いた路面を走行し、前輪ブレーキ、後輪ブレーキを別々に作動させたときのきき具合を点検します。

ブレーキのきき具合が悪いときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JWA11760

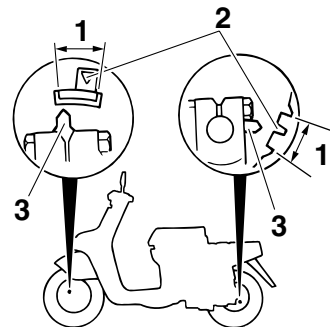


走行して点検するときは、交通状況に注意し、低速で走行しながら行ってください。

JAU29810

ブレーキシューの摩耗点検

ブレーキレバーをいっぱい握ったとき、またはブレーキペダルをいっぱい踏んだとき、インジケーターが使用範囲から外れるとブレーキシューの使用限度です。ヤマハ販売店で交換・整備を受けてください。



1. 使用範囲
2. ドラムインジケーター（ヤマハ販売店整備用）
3. インジケーター

JAU28602

バックミラー

バックミラーの脱着のしかた

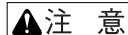
- 右バックミラーは左ネジです。

右バックミラーを取り外すときは、右バックミラー取り付けボルトを時計回り (a) 方向に回します。

- 左バックミラーは右ネジです。

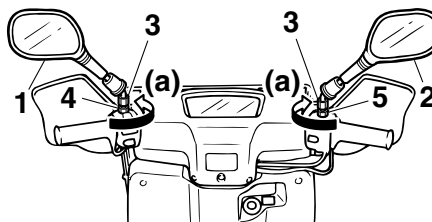
左バックミラーを取り外すときは、左バックミラー取り付けボルトを反時計回り (a) 方向に回します。

JCA15690



注 意

可倒部分締め付けナットは、ゆるめないでください。



1. 左バックミラー
2. 右バックミラー
3. 可倒部分締め付けナット
4. 左バックミラー取り付けボルト
5. 右バックミラー取り付けボルト

- バックミラーの取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

JAU28620

車体各部の給油脂状態の点検

車体各部の給油脂状態が充分であるかを点検します。

異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

点検整備

バッテリー

バッテリーの点検

この車のバッテリーは密閉式です。

バッテリー液の補充、点検は不要です。

バッテリーに異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、バッテリーを取り外して清掃します。

JAU28761

JWA11810



警告

バッテリーは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発し、ケガをすることがあります。次の点を必ず守ってください。

- 火気厳禁です。ショートやスパークさせたり、タバコなどの火気を近づけないでください。爆発のおそれがあります。
- 補充電は風通しのよいところで行ってください。
- ガソリン、油、有機溶剤などを付着させないでください。電そう割れの原因となることがあります。
- 落下などの強い衝撃を加えないでください。
- バッテリー液は希硫酸です。皮膚、目、衣

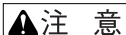
服などに付着すると、重大な傷害を受けることがあります。

- 子供の手の届くところに置かないでください。

応急手当

- 万一、バッテリー液が皮膚、衣服などについたときはすぐに多量の水で洗い流してください。
- 目に入ったときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けてください。

JCA12141



注意

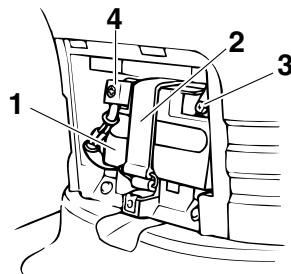
- このバッテリーは密閉式の 12V です。
- このバッテリーは液入り充電済です。液量点検および補水は必要ありません。
- 補充電には、密閉式バッテリー専用充電器を使用してください。くわしくはヤマハ販売店にご相談ください。
- 長期間で使用にならないときは、3 か月ごとに補充電してください。
- バッテリーを交換するときは、必ず同型式のバッテリーを使用してください。

JAU29241

バッテリーの取り外し

1. メインスイッチを OFF にします。
2. シート下側のカバー B を取り外します。

（カバーの取り外しは 6-2 ページ参照）



1. バッテリー
2. バッテリーバンド
3. - リード線
4. + リード線

3. -（マイナス）側リード線を外し、次に +（プラス）側リード線を外します。
4. バッテリーバンドを外し、バッテリーを引き出します。

バッテリーの取り付け

取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

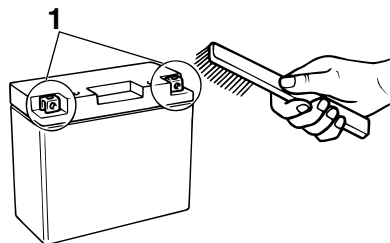
JAU29410

ターミナル部の清掃

バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、やわらかいブラシなどで清掃します。また、白い粉がついているときは、ぬる

ま湯を注いでよくふき取ります。

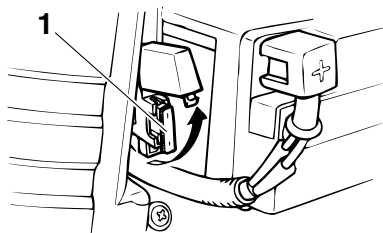
JAU36030



1. ターミナル

ヒューズの交換

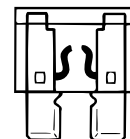
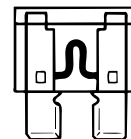
ヒューズホルダーは、カバーBの後ろのバッテリー横にあります。(カバーの取り外しは6-2 ページ参照)



1. ヒューズ

ヒューズが切れたときは、以下のように交換します。

1. メインスイッチを OFF にします。
2. 切れたヒューズを外し、規定アンペア数の新しいヒューズを取り付けます。



規定ヒューズ：
10.0 A

JCA12860

⚠ 注 意

- 交換するヒューズは、規格外のものを使用しないでください。
- 指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱や焼損の原因になります。
- 電装品類（ライト、計器など）を取り付けるときは、車種ごとに決められている「ヤマハ純正部品」を使用してください。それ以外のものを使用すると、ヒューズが切れたり、バッテリーあがりを起こすことがあります。
- 洗車時ヒューズボックスのまわりに水を強く吹き付けないでください。漏電や短絡

(ショート)の原因になります。

3. メインスイッチを ON にし、電気回路をオンにして装置が作動することを点検します。
4. ヒューズを交換してもすぐに切れるときは、ヤマハ販売店で電気系統の点検を受けてください。

JAU29490

灯火装置および方向指示灯の点検
エンジンを始動します。

- ヘッドライト、テールランプが点灯するかを点検します。同時にヘッドライト上下切り替えスイッチを操作し、上向き、下向きに切り替わるかも点検します。
- 前輪ブレーキ、後輪ブレーキを別々にかけ、ブレーキランプが点灯するかを点検します。
- 方向指示器スイッチを操作し、前後左右の方向指示灯が“カチカチ”音を伴って点滅するかを点検します。
- レンズなどに汚れや損傷がないかを点検します。

JAU29570

運行において異常が認められた箇所の点検

運行中に異常を認めた箇所について、運行に支障がないかを点検します。

こんなときは

こんなときは、ヤマハ販売店にご相談される前に次のことを調べてください。

エンジンが始動しないときは？

次の項目を確認してください。

1. メインスイッチは ON になっていますか？

2. ガソリンはありますか？

燃料計にてガソリン量を確認してください。

燃料計の指針が“E”のときは、最寄りのガソリンスタンドで給油してください。

3. 後輪ブレーキペダルを踏んでスタータースイッチを押しましたか？
4. スロットルグリップを回さずにスタータースイッチを押しましたか？

以上のことを確認してから、5-1 ページの方法でエンジンをかけなおしてください。

スターターモーターが回らないときは？

1. メインスイッチは ON になっていますか？
2. 後輪ブレーキペダルを踏んでスタータースイッチを押しましたか？

以上のことを確認しても、スターターモーターが回らないときは……

- メインスイッチを ON にして、ホーンスイッチを押します。

ホーンが鳴らないときは、ヒューズ切れが考えられます。6-11 ページを参照してヒューズを点検してください。

- ヒューズに異常がないときは、キックスターターでエンジンを始動し、早めにヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

ランプ類が点灯しないときは？

次の順序で点検してください。

1. メインスイッチが ON になっていますか？
2. ヘッドライト、テールランプはエンジン始動後、点灯していますか？
3. 各スイッチを作動させていますか？
4. ホーンスイッチを押したときに、ホーンは鳴りますか？

- ホーンが鳴るときは、ランプ自体の球切れが考えられます。「製品仕様」のページの規格に合わせて、同じものと交換してください。

- ホーンが鳴らないときは、ヒューズが切れていることがあります。6-11 ページを参照してヒューズを点検してください。

注意

電球は、正規の規格と同じものと交換してください。これ以外のものを使用すると、球切れ、作動不良などの原因となります。

ブレーキのきき具合がおかしいときは？

次の順序で点検してください。

1. ブレーキレバー、ブレーキペダルの遊びは適切ですか？
遊びの量が規定範囲外の場合は、6-7 ページを参照して遊びの調整をしてください。
2. ブレーキシューが摩耗していませんか？
ブレーキレバーをいっぱい握ったとき、およびブレーキペダルをいっぱい踏んだとき、インジケーターが使用範囲から外れるとブレーキシューの使用限度です。すぐにお買い上げのヤマハ販売店で交換してください。

走行中にエンジンが止まったときは？

ガソリンはありますか？

燃料計にてガソリン量を確認してください。ガソリンがないときは、最寄りのガソリンスタンドで給油してください。

上記のことを確認してから、5-1 ページの方法でエンジンをかけなおしてください。

点検整備

走行中にエンジンオイル量警告灯が点灯したときは？

早めにエンジンオイルを補給してください。補給すると警告灯は消えます。オイルが不足したまま走行すると、エンジンが故障する原因となりますので注意してください。

パンクしたときは？

この車はチューブレスタイヤを装着しています。

タイヤに異物が刺さったり、亀裂が見つかったときは、ゆっくり走行して最寄りのヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

パーキングロック使用中に前輪ブレーキが効いていないときは？

前輪ブレーキの遊びは適切(10.0–20.0 mm)ですか？

前輪ブレーキの遊びが多すぎると、十分にパーキングロックが作動しません。前輪ブレーキレバー先端部の遊びが 10.0–20.0 mm になるようにアジャスターで調整します。(6-7 ページ参照)

グリップウォーマーが暖まらないときは？ (BA50NH は標準、BA50N はオプション)

1. エンジンが始動していますか？

2. グリップウォーマースイッチは、LO または HI になっていますか？

上記のことを確認しても、グリップウォーマーが暖まらないときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU27780

JAU27950

いつまでも車を長持ちさせるために、お手入れをしてください。

すみずみまで掃除すれば、普段気付かない異常箇所や摩耗が発見でき、故障の予防にもなります。

洗車

雨天走行後など、車が汚れたときは早めに洗車してください。車をサビやキズから守ります。

- 中性洗剤を使用して水洗いします。洗車後は柔らかい布で水分をよくふきとります。からぶきはキズの原因になりますので、しないでください。また、スチーム洗車や水道ホースなどで、車に直接圧力をかける洗車もしないでください。

- 洗車後、必要に応じて各部にグリースなどを注油してください。
- 車の塗装面保護のため、ワックスをかけしてください。

ワックス：
ユニコンカークリーム



JWA11940

警告

- 洗車はエンジンが冷えているときにしてください。
- 洗車時、ブレーキドラムに直接水をかけないでください。ドラム内に水が入ると、ブレーキの制動力が低下し、一時的にブレーキが効かなくなることがあります。特に寒冷地では充分注意してください。
- 洗車後、ブレーキの効きが悪くなることがあります。効きが悪いときは、前後の車に充分注意しながら低速で走行し、効きが回復するまで数回ブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りをかわかしてください。

お車の手入れ

JCA12390

▲注意

- エンジンとカバーの間に布などを置かないでください。燃えることがあります。
- エアクリナーや電装品などに水が入らないように注意してください。故障の原因になります。
- マフラー内部に水がたまると、始動不良やサビの原因になることがあります。洗車時はビニール袋をかけるなどして、内部に水が入らないようにしてください。
- コンパウンドの入ったワックスは、プラスチック部分を傷つけますので、使用しないでください。

JAU27990

キャストホイールの取り扱い

日常のお手入れ

清掃は中性洗剤を使用し、スポンジで水洗いします。

(工業用洗剤、みがき粉、クレンザー、金属タワシなどは、傷がつくので使用しないでください。)

洗車後は、乾いた布などで水分をよくふきとってください。

長期間お手入れをしないと、表面だけでなく内部まで腐食します。手遅れにならないように、お手入れをしてください。

JWA11950

▲警告

変形したり、損傷したキャストホイールは、修正して使用しないでください。変形したり、損傷したときは、ヤマハ販売店にご相談ください。

JCA12220

▲注意

- 縁石などに乗り上げるときは、キャストホイールのリムが傷つきやすいので注意してください。
- アルミは塩分に弱く腐食しやすいので、海岸付近や凍結防止剤をまいた道路などを

走った後は、すぐに水洗いをしてください。

JAU28062

保管のしかた

車はできるだけ敷地内に保管し、屋外に駐車するときはボディーカバーをかけてください。

なお、ボディーカバーはマフラーが冷えてからかけてください。

JCA12432

⚠ 注 意

長期間お乗りにならないときは、以下のことを守ってください。

- 保管する前にワックスがけをしてください。サビを防ぐ効果があります。
- キャブレター内のガソリンをすべて抜き取ってください。内部のつまりなどを防ぎます。
- バッテリーを取り外し、充電器で満充電にした後、湿気のない涼しい場所に保管してください。また、バッテリーの劣化を抑えるため、3か月ごとに補充電を行ってください。
- 長期保管後の走行前には、バッテリーの充電、および各部の点検をしてください。

※補充電およびガソリンの抜き取りは、ヤマハ販売店にご相談ください。

アフターケア用品について

大切な車の寿命は、使用するオイルの品質により大きく左右されます。ヤマハの車には、ヤマハ純正用品をご使用ください。

JAU28081

オートループスーパービジネスオイル

燃焼性に優れた高純度化学合成油に、走行・停止の多い業務に合わせた添加剤を配合したオイルです。不完全燃焼によるカーボンの発生を抑えますので、マフラーの詰まりを大幅に低減します。

JAU28130



JAU28151

オートループスーパーオイル

ヤマハの2ストロークエンジンにはヤマハオートループスーパーオイルをご使用ください。

オートループスーパーオイルはヤマハの2

ストロークエンジンのために開発されたエンジンオイルです。



JAU28190

ME-R フィルターオイル

ヤマハコンペティションモデル専用に開発したフィルターオイルです。火山灰、サンド、赤土、泥ねい、泥水など、全日本MX ラウンド全ての状況を考慮して開発・テストしてありますので、車は常に優れた性能を発揮できます。

お車の手入れ



にも使用できる伸びのよいワックスです。

ME-180（防錆潤滑剤）

防錆、潤滑、防湿、浸透力に優れた金属保護液です。

JAU28270

ギヤオイル

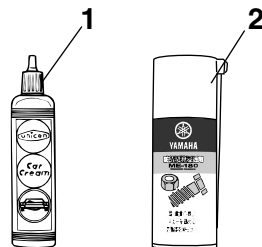
極圧性、酸化安定性に優れ、油膜強度が高いギヤオイルです。アワ立ちもきわめて少ないため、ベアリングの腐食や摩耗を防ぎます。



JAU28360

ユニコンカークリーム（ワックス）

塗装面の汚れを簡単にとり、手間をかけずに美しい光沢が得られます。また、どんな塗装



1. ユニコンカークリーム
2. ME-180（防錆潤滑剤）

JAU2633J

寸法：

全長：
1860 mm
全幅：
735 mm
全高：
1075 mm
シート高：
735 mm
軸間距離：
1270 mm
最低地上高：
90 mm

重量：

車両重量：
101 kg
分布荷重（前）：
40 kg
分布荷重（後）：
61 kg
乗車定員：
1 名

性能：

定地燃費（国土交通省届出値）：
51.0 km/L/30 km/h

最小回転半径：

1800 mm

最高出力：

3.7 kW@6500 r/min
(5.0 PS@6500 r/min)

最大トルク：

5.6 Nm@6000 r/min
(0.57 kgf-m@6000 r/min)

エンジン：

原動機種類：

2 ストローク空冷

気筒数・配列：

単気筒

総排気量：

49.0 cm³

内径 x 行程：

40.0 x 39.2 mm

圧縮比：

7.10 : 1

エアフィルターエレメント：

湿式エレメント

クラッチ形式：

乾式内拡重錘式

ミッション・チェンジ方式：

無段変速

始動方式：

セル、キック併用式

車体：

フレーム形式：

パイプバックボーン

キャスト：

26.00°

トレール：

78.0 mm

ステアリングシステム：

ハンドル切れ角（左）：

50.0°

ハンドル切れ角（右）：

50.0°

燃料：

フューエルタンク容量：

9.0 L

フロントブレーキ：

ブレーキ形式：

機械式ドラムブレーキ

リヤブレーキ：

ブレーキ形式：

機械式ドラムブレーキ

懸架方式：

種類（前）：

テレスコピック

製品仕様

種類 (後):
ユニットスイング
緩衝方式:
ショックアブソーバータイプ (前):
コイルスプリング / オイルダンパ
ショックアブソーバータイプ (後):
コイルスプリング / オイルダンパ

フロントタイヤ:

種類:
チューブレス
サイズ:
90/90-12 44J
メーカー / 銘柄:
IRC/MB58-TL
メーカー / 銘柄:
DUNLOP/K378FA

リヤタイヤ:

種類:
チューブレス
サイズ:
110/90-10 51J
メーカー / 銘柄:
IRC/MB57-TL
メーカー / 銘柄:
DUNLOP/K378B

トランスミッション:
1次減速比:
52/13 (4.000)
2次減速比:
43/13 (3.307)
変速比:
2.778-0.839 :1

エレクトリカル:

点火方式:
DC. CDI

ヘッドライト:

ヘッドライト球:
キセノンバルブ

バルブワット数 x 個数:

ヘッドライト:
12 V, 30 W/30.0 W x 1
テール / ブレーキランプ:
12 V, 5.0 W/21.0 W x 1
方向指示灯 (前):
12 V, 10.0 W x 2
方向指示灯 (後):
12 V, 10.0 W x 2
メーター灯:
12 V, 1.7 W x 1
手元灯:
12 V, 3.4 W x 1

パイロットランプワット数 / 個数:

オイル残量警告灯:
12 V, 3.4 W x 1
速度警告灯:
12 V, 3.4 W x 1

エンジンオイル量:

オイルタンク容量:
1.40 L

ファイナルトランスミッションオイル:

指定オイル:
ヤマハギヤオイル
オイル量:
0.11 L

ブレーキレバーとブレーキペダル:

フロントブレーキレバー遊び:
10.0-20.0 mm
ブレーキペダル遊び:
10.0-15.0 mm
スロットルケーブル遊び:
1.5-3.5 mm

フロントドラムブレーキ:

ライニング厚さ:
4.0 mm
使用限度:
2.0 mm

リヤドラムブレーキ：

ライニング厚さ：

4.0 mm

使用限度：

2.0 mm

プラグギャップ：

0.5–0.6 mm

ヒューズ容量：

メイン：

10.0 A

ホイールトラベル：

ホイールトラベル（前）：

76.0 mm

ホイールトラベル（後）：

68.0 mm

タイヤ空気圧（冷間時）：

前輪（1名乗車）：

150 kPa (1.50 kgf/cm²)

後輪（1名乗車）：

175 kPa (1.75 kgf/cm²)

バッテリー：

バッテリー型式：

YT4L-BS

バッテリー容量：

12 V, 3.0 Ah

点火タイミング：

点火時期（B. T. D. C.）：

14.0° / 1200 r/min

スパークプラグ：

メーカー / 型式：

NGK/BR7HS

JAU36640

二輪車を廃棄する場合は？

廃棄を希望する場合は？

廃棄を希望される二輪車がある場合は、お近くの「廃棄二輪車取扱店」にご相談ください。

廃棄二輪車取扱店とは？

(社) 全国軽自動車協会連合会の登録販売店で、広域廃棄物処理指定業指定店として登録されているお店が「廃棄二輪車取扱店」です。廃棄二輪車を適正処理するための窓口として、店頭「廃棄二輪車取扱店の証」が表示されています。



1

1. 廃棄二輪車取扱店の証

リサイクル費用とは？

廃棄二輪車を適正に処理し、再資源化する費用です。二輪車リサイクルマークが車体に貼付されている二輪車は、リサイクル費用を

メーカー希望小売価格に含んでいますので、リサイクル料金はいただきません。

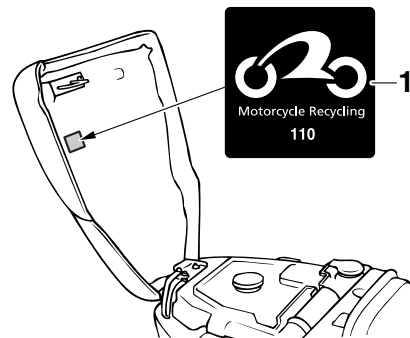
ただし、リサイクル費用には運搬および収集料金は含まれていませんので、廃棄二輪車取扱店または指定引取場所までの運搬・収集料金は、お客様の負担になります。運搬・収集料金につきましては、廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークの取り扱い

この車には、下図の位置に二輪車リサイクルマークが貼付されています。

廃棄時に二輪車リサイクルマークの有無を確認しますので、絶対に剥がさないでください。二輪車リサイクルマークは、剥がれや破損による再発行、部品販売の取り扱いはございません。

剥がれや破損でリサイクルマーク付き対象車かどうか不明の場合は、下記へお問い合わせください。



1. 二輪車リサイクルマーク

廃棄二輪車に関するお問い合わせについて

廃棄二輪車に関するお問い合わせは、最寄りの「廃棄二輪車取扱店」または下記へお問い合わせください。

(財) 自動車リサイクル促進センターホームページ

<http://www.jarc.or.jp/>

二輪車リサイクルコールセンター

電話番号 03-3598-8075

受付時間 9時30分～17時00分（土・日・祝日・年末年始等を除く）

JAU28370

JAU28410

サービスマニュアル(別売)の紹介

サービスマニュアルには、点検・調整や分解・組立の方法を写真やイラストを用いて説明してあります。車の概要や構造を理解するためにご利用ください。

サービスマニュアルのご注文は、ヤマハ販売店で受けております。部品番号をお知らせください。

ギア サービスマニュアル 部品番号：

基本版：

QQS-CLT-000-4KN

追補版：

QQS-CLT-010-4KN

QQS-CLT-011-4KN

QQS-CLT-012-4KN

QQS-CLT-013-4KN

※追補版は、マイナーチェンジなどで機構に変更があったときに、その変更部分のみを説明したサービスマニュアルです。基本版とあわせてご使用ください。

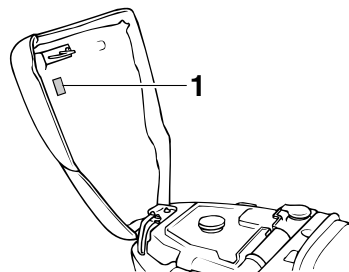
車両情報

モデルラベル

パーツオーダー、アフターサービスなどに使用します。

モデルラベルは、あなたの車を正確に特定するための情報をコード化したものです。ご相談の際には、車名およびモデルラベルの内容を正確にご連絡ください。

モデルラベルは、シート裏側に貼り付けてあります。



1. モデルラベル

あなたの車の情報を記入し、控えにしてください。

車名は

ギア BA50

モデルラベル

製品仕様を示しています。



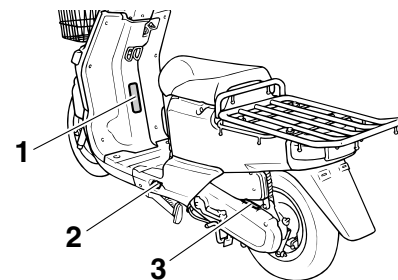
カラーリングを示しています。



車台番号、原動機番号、型式認定番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。

詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。



1. 車台番号

2. 型式認定番号

3. 原動機番号

あなたの街のあなたのお店

最寄りのお客様相談窓口については、メンテナンスノートの
巻末をご覧ください。

QQS-CLT-114-4KN

再生紙を使用しています



PRINTED IN JAPAN
2006.11-0.7 × 1 
(J)